



柏市学校図書館だより

小学校版
第4号
令和7年12月
柏市学校図書館

今年も早いもので、もう残り1か月ですね。年末年始は、お正月の遊びや飾り付け、特別な行事食など、普段の生活とは少し違って、日本の文化にふれる機会が多い時でもあります。学校図書館の本には、伝統文化を詳しく紹介したものや昔話もたくさんありますよ。

来年は午年！ どうしてこんな字を書くのかな？

十二支に用いられている漢字は、中国最古の象形文字とされている「甲骨文字」がもとになっています。「甲骨文字」とは、目に見たものの形や様子を文字に表したもので、殷の時代には占いを記録するために使われていました。

「午」の字は、「きね」の象形で、交互になるという意味を表しています。

(出典：『しばわんこの和のこころ3日々の愉しみ』川浦良枝 白泉社、Sagasokka!『甲骨文字』)



。。。 おうちの人と読んでみよう！馬が出てくる名作絵本

『スーホの白い馬』 おおつかゆうぞう さいわ あかばねすえきち が ふくいんかんしよてん
大塚勇三/再話 赤羽末吉/画 福音館書店〈えほん・お〉

まず 貧しいけれど働き者の少年スーホは、ある日生まれたばかりの白い子馬を拾います。スーホの手によって大切に育てられた白い馬は、やがて立派に育つのですが……。モンゴルの民話です。

この本おすすめ！ テーマ《日本の文化に親しもう》

『こども文様じてん』

下中菜穂/著 平凡社〈727〉

星や月、生きものや植物、あそびなどのくらしの様子・・・人々は、実に様々なものを小さな文様に表してきました。

この本には、文様の歴史や、もんきりあそび（文様の切り紙）の型紙などが、カラフルな文様と共に紹介されています。



『彦一とんちばなし 上・下』

小山勝清/著 偕成社〈913/こ〉

彦一は、皆がおどろく知恵をもった男の子です。この本では、そんな彦一が、知恵を使って弱いものを助け、悪いものをこらしめるゆかいなお話をたくさん楽しむことができます。

村一番のなまけもの・権太をはたらきものにかえた「石のこやし」や、彦一をぎゃふんといわせた「殿様との知恵比べ」「飛行術」など。